

視線計測システムを用いた看護観察行動の定量的分析

【はじめに】 観察力は看護実践において重要な看護技術です。人間は情報の約 70% を視覚から得るといわれており、経験の豊富な看護師の観察行動を視線から分析することができれば、看護学生の看護観察力の育成・向上を図る上で効果的な教育のデータとなり得ると考えます。看護師の観察力の臨床経験年数による違いを解明するために、視線計測システムを用いた実験研究が行われていますが、これまで行われてきた研究の多くは、写真やモニター画面上を観察する実験が中心でした。本研究では、より実際の看護実践場面に準じた環境で、看護者が何をどのように見ているかを明らかにすることに取り組みます。

【対象】 臨床における看護の経験期間が異なる以下の方々を対象とします。

①臨床看護師：通算 5 年以上、かつ 3 年以上の外科系分野での臨床経験を有し、所属部署の看護師長の推薦を受けた者. 12 名

②看護学生：看護基礎教育のカリキュラムの全ての臨床実習を履修した者. 12 名

本研究では、佐賀大学医学部倫理委員会の承認を受け、平成 25 年度から平成 26 年度にかけて収集した実験データを使用します。研究参加を辞退されたい場合には、後述の連絡先へご連絡ください。お申し出を頂いた方のデータは研究に使用いたしません。

【研究内容】 本研究は、臨床経験の豊富な熟練看護師と学習過程にある看護学生を対象に、模擬病室での看護場面における観察行動を視線計測システムで測定し、それらの定量的データの解析により、両者の視覚情報探索行動の違いを明らかにすることが目的です。佐賀大学で承認を受けて既に実施した実験で収集した①視線計測システムで測定した注視時間、注視対象、視線移動の記録、②実験中に室内に固定したビデオカメラで撮影した対象者の行動を記録した映像、③実験終了直後に行った対象者へのインタビューデータを使用し、視線移動パターン（観察行動の順序性）、視線配置割合（視線を向けた対象）、注視回数および注視時間（視線を停留させて注目した対象）について、人間工学の視点を取り入れ詳細な解析を行います。

本研究の研究計画書および研究方法に関する資料をご覧になりたい場合には、閲覧を希望される旨を後述の連絡先へご連絡ください。資料を提示いたします。

【個人情報の管理について】 対象者や研究協力者が特定され得る画像や音声などの個人情報はデータのデジタル化、ファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。データは施錠できる保管庫への保管を徹底するなど取り扱いには十分注意します。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、個人特定できる情報は一切含みません。

なお、本人から要求があった場合は、保有する個人情報のうち、本人に関するもののみ開示致します。

【研究期間】 研究を行う期間は承認日より平成 30 年 3 月 30 日までとします。

【データの二次利用について】 本研究で使用する映像および音声データを用いて新たな看護教育研究を行う場合は、改めて倫理審査委員会に申請を行い、承認を受けた後に実施します。

【社会への貢献】 本研究の成果を、看護基礎教育ならびに新人看護師教育や医療現場への復帰を希望する潜在看護師の再教育に活用することで看護職者の観察力の育成・向上に寄与できると考えます。

【研究機関】

本研究における研究機関の名称および研究機関の長：

九州大学大学院医学研究院・医学研究院長・住本英樹

佐賀大学医学部・医学部長・藤本一眞

研究責任者：九州大学大学院医学研究院看護学分野・教授・加来恒壽

研究分担者：九州大学大学院医学研究院基礎放射線科学分野・教授・大喜雅文

九州大学大学院医学系学府保健学分野・大学院生・末次典恵

連絡先：九州大学大学院医学研究院看護学分野・教授・加来恒壽

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 電話：092-642-6708